

青春を駆け抜けた18人の創立者たち



海外留学組

菊池 武夫

第2代東京法律学校長—近代中央大学創
1854 (明治7) - 1912 (明治45)
法学・政治ボストン大学ロースクール
初の日本人法学士武夫といえるのは明治前期の法律知識に
五箇の箇による。母校で文筆に学び、
明治前期に上京。第1文部省
留学学生に選出された際の仲間には、後に
外務大臣となる小村寿太郎がいた。
菊池は外務省として、その外交官としての
経験等を活かし、多岐にわたるが、東京
法律学校長や中央大学長を21年間
務め、その行く末を見守った。

海外留学組

郷横 陳重

1855 (明治2) - 1906 (大正16)
法学・文学近代日本法學の
牽引者郷横家の家訓は法學に關する家訓で
「律」に因み習得を促すための訓言
を家訓が家訓にしたという。1891年、
米田中のロシア皇太子が貴族する
大津事件が起こった。その時、在野
官制に對して日本の皇太子への招待
と同等に對することと主張であると主張し、
司法の独立と皇權を擁護した法學者
の一人が郷横陳重であった。

海外留学組

関村 輝彦

第3代中央大学創
1855 (明治2) - 1916 (大正5)
法学・政治明治法學下の大訴訟を
闘った英法の博士ロンドンで法學の面白さを知り
法學に傾倒した関村だが、卒業試験
時に東京府を巡りして1年後に60
という。関村の名は一躍有名になっ
たのは1892年の千鳥湖事件であった。
明治法學下、3年に渡った英法の
ピーター・マクドナルドとの訴訟事件で
闘った関村は、イギリス法で
闘ったという快挙を成し遂げた。

海外留学組

増島 六一郎

第1代東京法律学校長—近代中央大学創
1857 (明治2) - 1945 (昭和20)
法学・政治三代を生きた
気風バリスター六一郎という名は号新野の父右衛門
門が61歳の時に生まれたことによる。
増島は東京府立法政学校で法学と政治を
学び、後に東京大学で法学で卒業する。代官
人（弁士）となった。『バリスター
法学士代官人』という独自の著書を書
いて名を馳せ、明治、大正、昭和の
3代にわたって活躍。その名はアメリカ
にも響き渡った。

海外留学組

土方 寧

1859 (明治2) - 1879 (明治14)
法学・政治イギリス法教育の
伝道者イギリス留学中、土方はロンドンで
での経験の経験から同地のジェントルマンに
なっている。マス・メリーや狩猟にも熱心で、
増島は東京府立法政学校で法学と政治を
学び、後に東京大学で法学で卒業する。代官
人（弁士）となった。『バリスター
法学士代官人』という独自の著書を書
いて名を馳せ、明治、大正、昭和の
3代にわたって活躍。その名はアメリカ
にも響き渡った。

海外留学組

高橋 健三

1855 (明治2) - 1895 (明治28)
法学・政治威風凛々な
実力主義者高橋が内閣官制局長に就任した時、官
制局長に就任された高橋は官制局長の官文中
に「字體がよかったこと」の賞状の存在を
めぐって、時の権力者伊藤博文と激しく
対立する事件があった。その時、健三は
少しも怯むことがなかったことから、
評議が高まり、『英文部法政雑誌』
の編集が高まり、官制局長に就任した
といわれている。

海外留学組

西川 鉄次郎

1853 (明治6) - 1932 (昭和7)
法学・政治白虎隊出身の
創立者西川が第15歳を迎えた1868年に戊辰
戦争が起こった。この内戦で最も激戦
だったのが、西川が白虎隊第2連隊
隊士として出陣した会津戦争だった。
その後、裁判官となった西川は全国に
7つしかなかった裁判官のうち第1と
長崎の院長に就任。明治という時代に
あって、会津出身の西川の院長就任は
高橋の立身出世であった。